

会社は職場の声を聞き、納得感ある説明をするべきだ！

乗務員による分併作業時の固定金具取付に対して

職場から声をあげよう！

4月21日、新幹線統括本部は突如「分併作業時の当面の対策の体制変更」を各職場で一斉に発表しました。内容は**現在1列車あたり検修社員2名体制で行っている列車分離に対する暫定対策の金具取り外しを当該列車の乗務員が行うように体制変更する**というものです。

資料の中では「必要な訓練を全乗務員に対して行う」「体制変更後も検修社員1名が立ち会い確認を行う」となっていますが、**そもそも列車分離が半年間に2回も発生していること、事象発生後の調査の途中経過などが現場に全く説明されていないこと、暫定対策実施もマスコミ発表後に暫定対策実施を知ったなど会社の対応に現場では不安や不信感が渦巻いています。**

その最中に、乗務員による固定金具の取り付けの実施が明らかになりましたが、**またもや何故乗務員が固定金具の取り付けを行うのかなど説明もないことに職場は「何故6月からなのか」「決まったからでやりなさいでは一方的ではないか」と疑問や不安が多く納得感はありません。何よりも暫定で行っている現在の対策を「より効率のよい方法へとステップアップさせていく」という発想は、職場の声が反映されているのか疑問であり、新幹線運行や働く者の安全が本当に確保されているのでしょうか？**

JR 東労組新幹線協議会は、安全・安心な環境をつくるために、一方的な実施に対して職場の声を議論していきます！